

# 第9回新嵐山スカイパーク経営改革

## 調査特別委員会会議記録

開 閉 会 日 時	令和5年12月7日(木曜)		9時30分 開会		
	休 憩 10:31-10:45 11:11-11:12 11:39-11:40 11:47-11:48 11:48-13:30				
	13時54分 閉会				
	休憩時間：1時間59分		会議時間：2時間35分		
会議場所	役場3階委員会室				
出席委員 氏 名	副委員長	正村紀美子	委 員	堀切 忠	
	委 員	常通 直人	委 員	橋本 和仁	
	委 員	中村 和宏	委 員	中田智恵子	
	委 員	早苗 豊	委 員	小笠原 等	
	委 員	立川 美穂	委 員	伊藤 稔	
	委 員	渡辺洋一郎	委 員	菊池 秀明	議 長 梶澤 幸治
欠席委員 氏 名	委員長	鈴木 健充	委 員	木村 淳彦	
	委 員	西尾 一則			
説明等に 出席した 者の氏名	町長	手島 旭	魅力創造課参事	中村宗紀	
	副町長	佐野 寿行	魅力発信係主査	藤村勇貴	
	魅力創造課長	西田昌樹	政策推進課長	石田 哲	
事務局職員	事務局長	安田 敦史	総務係長	竹川 恭史	総務係主査 上田瑞紀

### 『会議に付した事件と会議結果など』

#### 1 開 会

- ・開会を告げ、鈴木委員長から疾病により欠席の申出があり、芽室町議会委員会条例第11条の規定に基づき、副委員長が委員長の職務を行う。西尾委員及び木村委員より欠席の申出があった旨報告し、事務局から本日の委員会の日程を説明する。

#### 2 議 件

##### (1) 調査事項

##### ア 新嵐山スカイパークの今後について 資料1

資料について担当参事より説明。

- ・委員長：これより質疑に入る。項目ごとに質疑を行う。はじめに「1 令和5年度の運営について」、意見・質疑はないか？
- ・菊池委員：(2)の部分でスキー場等の部分は、リフトを含めた部分なのか？新嵐山スカイパーク全体を含めた部分なのか？
- ・魅力創造課参事：1月下旬まで会社の清算の関係で施設に入れないので、部分的な活用も困難な状況。
- ・中村委員：ミニスキーやそり遊びなど何とか利用できないのか？再度検討の余地はないのか？
- ・町長：スキー関係団体と協議し、歩くスキーは指定管理の範疇ではないので、町

道などを利用しながら継続解放していきたい。そり遊びは今後検討する。ゲレンデスキーはリフト稼働の費用対効果も鑑み難しい。

- ・立川委員：歩くスキー以外の団体からどのような意見があったのか？
- ・町長：ゲレンデスキー関係の団体は、リフトが稼働できないことに一定程度理解。バックカントリーは自己責任であるが、一定程度監視は必要なので、危険な部分の表示や看板設置は必要である。今後は施設の老朽化の対応や町民還元策も考えていく。
- ・立川委員：雪山をハイキングで楽しむ方の利用について。町としての所見は？
- ・町長：毎年冬季間林道は閉鎖しているので、あとは自己責任になる。
- ・立川委員：木道のあたりを登る利用は可能なのか？
- ・町長：従前も制限していないので利用可能。
- ・常通委員：当初予算で計上しているロッジの改修工事や備品購入費はどのように整理するのか？
- ・魅力創造課参事：未執行の部分は3月補正で対応。
- ・常通委員：降雪車等の備品購入費の不用額も3月補正で対応なのか？
- ・魅力創造課参事：お見込みのとおり。
- ・立川委員：住民主体のイベント企画への対応は？
- ・町長：1月25日以降何でもできる訳ではなく、事業の企画内容を見た中で、町として案件ごとに対応する。
- ・伊藤委員：電気料はリフト稼働部分まで契約に入っているのであれば、基本契約を下げることはできないのか？
- ・魅力創造課参事：家庭用電気ではなく、高圧の契約なので下げることはできない。
- ・早苗委員：そり遊び等の要望に応えるため、公園等代替場所を作る考えはあるのか？
- ・町長：今のところ代替場所は考えていない。
- ・委員長：他にはないか？  
(意見・質疑なし)

- ・委員長：次に「2 令和6年度の運営について」、意見・質疑はないか？
- ・立川委員：フィールド一体とした公園機能の整備はどのように考えているのか？
- ・町長：当初予算で夏の公園維持管理費用を一定程度予算計上し、冬は直営も含めた中で運営手法を検討していかなければならなく、補正予算での計上を考えており、手戻りしないよう必要な予算を計上する。
- ・立川委員：来年度公園としてあの場所を楽しむためにはどのような費用が必要と考えているのか？
- ・町長：現段階では新年度の予算の詳細まで詰めていない。当初予算の議論を行うまでに検討する。
- ・常通委員：令和6年度キャンプ場等のグリーンシーズンの経費は補正予算計上するのか？それとも必要最低限の維持管理費で考えているのか？
- ・町長：町としてどの程度の機能が必要か一定程度洗い出してまとめたい。ワーク

ショップで骨格を固めて、2月まで整理する。解放できるところは解放していきたく、その必要経費は予算計上していきたい。ただし、体制づくりから始めて行かなければならず、その辺がクリアした段階で補正予算計上を提案していきたい。

- ・早苗委員：通常の市街地公園と同じように使えると考えてよいか？
- ・町長：公園機能はできれば開放していく維持管理方法をしていきたい。
- ・渡辺委員：あり方の骨格の決定が2月で、決定した段階で次年度予算計上となるが、パークゴルフ場やキャンプ場をどういう形で開いていくのか？
- ・町長：アクティビティ機能は令和6年度のスキー場からと考えており、夏に昨年度と同じようなことはできない。
- ・委員長：他にないか？  
(意見・質疑なし)

- ・委員長：次に「3 経営方針変更の手順とスケジュールについて」意見・質疑はないか？
- ・橋本委員：町負担額の圧縮を図るため上限額を設けるべきでは？
- ・町長：施設改修には一定の事業費は必要。特定財源や企業版ふるさと納税やクラウドファンディングを活用しながら町の負担を圧縮していく意味合いであり、上限額設定は難しい。
- ・堀切委員：必ずしも町が稼ぐ必要があるのか？ゼロベースで検討するのに稼ぐ行政が最初から入っている必要はないのでは？
- ・町長：町自体が民業を圧迫して何かを稼ぐ訳ではない。町自体の自己負担を圧縮させるという意味の稼ぐ行政で、町が潤いたいという意味ではない。
- ・常通委員：民間事業者との協議を進めているとの記載があるが、現時点で具体的にどういった会社なのか？
- ・町長：9月21日の否決に関係なく、次のグランドデザインをどういったところと模索してきた中で、国内アウトドアメーカー大手と今協議を進めている。
- ・常通委員：骨格を確定させるために助言をいただくという協議で良かったか？
- ・町長：骨格作りは基本的に町が主導で、助言は求めたい。
- ・常通委員：観光ビジョンはいつ頃策定予定なのか？
- ・町長：骨格作りと並行して行っているので3月くらいを想定。
- ・立川委員：クラウドファンディングは次の担い手企業が実施主体として取組むのか？
- ・町長：基本的には行政主導の中で、町として交付金や補助金を申請。
- ・立川委員：ふるさと納税の一環としてのガバメントクラウドファンディングという理解で良かったのか？
- ・町長：単純な寄附行為もある。いろいろな手段を考えて使いながら稼ぐ行政に結びつけていきたい。
- ・小笠原委員：令和7年度グランドオープンという考えか？
- ・町長：改修が必要となれば一定程度時間が必要となり、具体的には明言できない

が、令和7年4月は非常に厳しい状況である。

- ・小笠原委員：新嵐山再生において、商店会を活性化させる考え方はあるのか？
- ・町長：商店会やまちなかが賑わう手法を検討し、経済循環を図る。
- ・小笠原委員：世界ホテルみたいに町全体がホテルみたいな形となる考え方は？
- ・町長：嵐山の機能の今後については、議論する必要があり、まちなか再生や経済循環は必要である。宿泊施設も重要な観点であり、参考とさせていただく。
- ・小笠原委員：新嵐山スカイパークのグランドデザインを5年後の町のグランドデザインにする考えはあるのか？
- ・町長：新嵐山は観光やまちづくりの拠点として重要な場所なので、町のグランドデザインにつながるようなデザインにしていきたい。
- ・渡辺委員：グランドデザイン策定は国内アウトドアメーカーとのことだが、町と連携協定を結んでいるところなのか？協議内容は？
- ・町長：連携協定を結んでいる株式会社モンベル社に声をかけて協議がスタートした。たまたま連携協定を結んだ中で相談したところ、全国でスキー場運営の実績もあり、先方で検討する旨の回答が得られたことから、いろいろ御相談させていただき今の状況にある。協議内容はグランドデザインを描いてもらえないかということで、担い手ありきではない。
- ・渡辺委員：今後グランドデザインを一緒に作っていく中が、新嵐山に何らかの形でかわりを持っていただくという協議の進め方なのか？
- ・町長：運営の仕方はいろいろな意見があり、町の財産として持ち続けるとすれば、直営か指定管理業務委託になり、貸与や売却は考えていない。
- ・渡辺委員：この会社が担う前提ではないとしても、ショップ進出は考えているのか？
- ・町長：全国有数のアウトドアメーカーで非常に大きい集客力があるので、ショップ進出を要望していきたい。
- ・渡辺委員：十勝エリアにはアウトドアショップはなく、芽室の立地は優れている。このチャンスを逃さないよう協議を進めていただきたいが？
- ・町長：行政なので慎重に考えてグランドデザインをしっかりと作っていきたい。
- ・渡辺委員：令和6年度中にグランドデザイン策定で、令和7年4月から直ぐ一帯がオープンという流れではないという理解でよいか？
- ・町長：令和7年4月に方向性を出し、プレオープンのようにスキー場だけ先にやっていただく形で、グランドオープンまで数年かかる見込。
- ・渡辺委員：スキー場は令和6年12月からオープンするのか？
- ・町長：直営も含めてオープンを目指す。
- ・堀切委員：ゼロベースでの見直しを進めていくという中で、活用計画は以前の活用計画の点検・見直しということか？
- ・町長：基本的に以前の活用計画からグランドデザインに移行するイメージ。
- ・堀切委員：リュラルインザ・スカイパークの名称も含めて見直すのか？
- ・町長：名称については答弁を控えたい。
- ・立川委員：具体的企業名が示されたが、議会と情報共有できなかったのか？

- ・町長：企業誘致と同様な感覚とっており、先方の同意があつての公表となり、情報公開していくことにはならなかった。
- ・早苗委員：活用計画を策定するにあたり、計画を作る段階でのプロセスに問題があつたから、今回このようなプロセスを踏んでランドデザインをつくるのか？
- ・町長：今回のランドデザインに活用計画の多くをベースとは考えていないが、一部は継承すべき項目もある。前の計画がすべて悪いとは思っていない、重要であり、必要なところは継承していく。
- ・早苗委員：指定管理で手を挙げるところが1社しかなかった過去の経緯を踏まえ、そうならないための1つの教訓としてランドデザインを作って、そのためにこの民間会社と手を組んでやっていくという覚悟なのか？
- ・町長：何かの計画に向かって目標づくりとしてランドデザインが必要。前回の活用計画の中の1つの反省点として、町民の意見を盛り込むことができなかつた。今回のランドデザインを進めるプロセスとしては、既に開催した新嵐山スカイパークの経過説明会や、今後開催するワークショップや巡回型未来ミーティング、アンケート調査結果等総合的に分析しながら、議会の皆さんの意見も踏まえ、ランドデザインを作っていく。
- ・早苗委員：プロセスはこれまで足りなかつた部分を補いながら、町単独ではなく、知見のある会社に協力をお願いし、これまで以上の嵐山活用ができるようにするという理解で良いのか？
- ・町長：そういう意味で協議しており、これからも進めていきたい。
- ・中村委員：令和6年2月までにあり方を確定するとのことだが、芽室の財産として山を残すのか？
- ・町長：全員が納得する提案はできないが、町としては山を再開していきたい。議会からも同様の提言をいただいている。2月まで一定の方向を決めて、町民からの意見もいただいております、必要な機能等を精査して、最終的な町のランドデザインは令和6年度中なので、その前段できちんと協議するために皆さんの意見をいただくというシナリオである。
- ・中田委員：基本的にスキー場は残す方向だと答弁があつたが、リフトの老朽化が課題で架け替えとなつた場合に大きな費用がかかると想定されるが、今想定している予算は？
- ・町長：一切ない。ゼロベースでやっている。
- ・中田委員：ゼロベースであり方を決定するとのことだが、今想定している手法は？
- ・町長：まっさらな状態。細かいことをあり方や骨格に入れる予定はない。ランドデザインの策定と並行して、町民意見を把握し町としてのランドデザインを固めていく。
- ・渡辺委員：令和6年度中にランドデザイン策定ということだが、年度ごとのアクションプランのようなランドデザインを具体化する計画を今後作る予定は？
- ・町長：ランドデザインは最終的の目標の形になるまで数年かかるので、その間どうするかは盛り込む必要がある。アクションプランになるのかは申し上げられない。

- ・渡辺委員：あの場所が今後も財産として残っていくというメッセージも含めて、グランドデザインにある程度盛り込んでいくという考え方か？
- ・町長：お見込みのとおり。
- ・早苗委員：今の設置条例改正も含めてビジョンを策定するのか？
- ・町長：条例改正まで踏み込んだ話はできないが、企業性と公共性を第三セクターで果たしていくのは難しかった。町民還元等ソフト事業を入れて集客を図る。町と委託する会社の役割分担を明確にする。事業費には議会と議論しながら決めていく。日高山脈との関係もうまく活用しながら考えている。現状は条例改正や考え方変える予定はない。
- ・早苗委員：設置条例が何かをするための足かせになるなら、条例改正も視野に入れるべきではということで質疑させていただいたが現段階でないという見解で良いか？
- ・町長：現段階での考え方になる。将来的に 100%という訳ではない。
- ・委員長：他にないか？  
(意見・質疑なし)
  
- ・委員長ここで、委員長の職を年長委員の小笠原委員と交代する。少しの間休憩とする。  
(休憩)
- ・委員長（小笠原）：休憩を取り消し、委員会を再開する。引き続き質疑を行う。
- ・正村委員：ゼロベースの考え方は？
- ・町長：町民の意見を反映させることがゼロベース。
- ・正村委員：令和6年度にグランドデザイン策定を委託し、令和7年度以降に新たに事業者を決めていくのであれば、ある程度令和6年度に新たな担い手もいつくらいという想定をしているかと思うが、どのようなスケジュールを持っているのか？
- ・町長：グランドデザインをお願いする以上、一定程度モンベル社の優位性がある。地元の企業も参画できるようなJV的な提案もある。地元で精通した企業と組んでできないかという話もいただいている。できるだけ早期に再開して欲しいとの声もあり、担い手の選定はできるだけ早い段階で進めていく必要がある。
- ・委員長（小笠原）：他にないか。改めて委員長職を正村委員と交代する。休憩する。  
(休憩)
  
- ・委員長：自由討議を行う。スキー場のあり方について意見はないか？
- ・立川委員：今年度中の運営は困難であり、ゲレンデスキー団体から一定程度の理解。歩くスキーの会は一部制約があるがこれまでどおりの利用。ゲレンデスキー以外の手法でフィールドが眠らないようにすることが今年度のできることに。
- ・中村委員：スキー場は難しいと理解。ミニスキーやそり滑りは検討していきたいとの答弁があったので模索していただきたい。
- ・常通委員：議会モニターとの意見でもリフトを稼働させなくても利用できる方法

を模索。ゲレンデスキーの運営は難しく、その他の利用は自己責任での利用。今年度の運用は町の考えで良い。

- ・橋本委員：1月25日以降はそり滑りは検討し、歩くスキーは従前どおり利用できるので異論はない。
- ・早苗委員：町は閉鎖期間終了後も一般開放はしない。その他は利用申請があったときにケース・バイ・ケースで考えるとのことだったが、町の考え方の共通認識を図りたい。
- ・委員長：スキー場以外の部分は一般開放しない。その他の部分はそのときの状況によって判断していくということで共通理解を図ることとする。
- ・委員長：その他の事項での自由討議はあるか？
- ・常通委員：議会として色々な意見が言える形で進めていただきたい。
- ・橋本委員：担い手の会社とグランドデザインを策定する段階で、町民手法の参加者を募るということであり、今後グランドデザインを作る過程でさらなる調査が必要と考える。
- ・立川委員：嵐山の進捗状況に応じ、議会として住民からの意見聴取の機会を設ける必要がある。
- ・委員長：他にないか？  
(なし)
- ・委員長：以上で自由討議を終了する。

### 3 その他

#### (1) 次回委員会の開催日程について

- ・委員長：正副一任

#### (2) その他

- ・委員長：その他で各委員からないか？
- ・立川委員：今後も特別委員会で調査するのか所管委員会で調査すべきか議論すべきである。
- ・委員長：10月31日の特別委員会において調査の視点及び審査のポイントを示した。
- ・立川委員：ある程度数年間のスケジュールが示されたので、所管に戻して良いのではないか？
- ・橋本委員：グランドデザインの骨格ができあがるまで特別委員会で調査すべき。
- ・常通委員：令和6年度グランドデザイン策定まで特別委員会で調査すべき。
- ・委員長：10月31日に決定した3点に沿って調査を進める。
- ・委員長：他にないか？  
(なし)
- ・委員長：議長からないか？
- ・議長：本日は活発な議論ができた。今後のスケジュールで、2月にあり方の骨格が確定、令和6年度中にグランドデザイン策定が示され、芽室町観光ビジョンは3月策定となっており、芽室町観光ビジョンはしっかり所管委員会で調査してい

ただきたい。

- ・委員長：事務局からないか？

(なし)

以上をもって委員会を閉会する。

傍聴者数	一般者	0名	報道関係者	3名	議員	0名	合計	3名
------	-----	----	-------	----	----	----	----	----

令和5年12月7日

新嵐山スカイパーク経営改革調査特別委員会

副委員長 正村 紀美子

議長	副議長	局長	係長	主査	作成者氏名
					竹川 恭史